

# 南会津 のうりんニュース



## 今月の写真:「SL会津只見号」(只見町 叶津鉄橋)

「会津～あったんです。まだ、極上の日本が…」をテーマに、7月1日から9月30日まで、福島県あいづステーションキャンペーンが開催されています。

SL会津只見号が会津若松～只見の区間で運行されています(運行日限定)ので、ぜひ、ご利用下さい。

## 今月の内容:

- 今月のトピックス
  - ・森林と水の学習会を開催!!
  - ・農業改良普及推進懇談会を開催! 他
- 農林事務所からのお知らせ
- この人を知りたい  
平野和利さん 檜枝岐村
- 水田農業改革ミニニュース(第3回)  
推進活動を展開中!
- 南会津のこれが食べたい!!  
「笹巻き」(南郷村)
- 今月のコラム

平成17年8月10日発行 福島県南会津農林事務所

## 今月のトピックス

### 森林と水の学習会を開催!!

南会津の豊かな自然は、我々にも数々の自然の恵みをもたらしてくれます。そのなかでイワナやヤマメは清流に生息し、多くの人々に楽しみを与えてくれます。このイワナやヤマメの稚魚放流が、去る7月7日に下郷町旭田小学校4年生(25名)が、下郷町澳田の男女川で、そして7月11日に伊南村小学校1、3年生(30人)が、伊南村青柳の久川でそれぞれ行われました。

この放流会は、釣り人の増加や自然環境の変化などによりイワナやヤマメが減少し、さらに治山や砂防事業等のダムによっても魚の生息に影響があるとされることから、平成3年度に南会津森林土木協会若手グループの主催により初めて開催され、さらに平成10年度から地元小学生を対象にして「森林と水の学習会」として回を重ね、今年で15回目を迎えました。

当日は清流の川岸において放流前に森林の働きや溪流魚についての話を南会津農林事務所の職員や地区の漁協組合員が講師となって学



(森林の囲まれた学習会)

習会を行い、子供達は周辺の豊かな自然を新たに認識したようでした。

さて、いよいよ放流会になると子供らしく張り切り、バケツに何杯もイワナをもらい、大きく成長するよう願いを込めて放流を行いました。



(元気いっぱいの子供たち)

自然に恵まれた南会津ならではの毎年恒例の行事で、子供達には思い出に

残るものであったと思われます。

またこの行事は学校側からも好評で、出来るだけ多くの学校に体験してもらうため、毎年町村、学校を変えて実施しています。

(森林林業部)

### 農業改良普及推進懇談会を開催!

去る7月19日、田島町旧中央公民館において、「南会津地域農業改良普及推進懇談会」を開催しました。

本懇談会は、農業改良普及事業の効率的かつ効果的な推進を図るために設置されたもので、地域農業代表者や町村・関係団体と普及活動内容について検討を行うものです。

(2ページに続く)



当日は、これまでの普及活動の主なポイントについて説明を行い、また、集落営農について、先進事例のビデオを見た後、今後の進め方について検討を行いました。

主な動きには次のようなものがあります。

- ①今年度の新規就農者は過去10年間で最も多い14名で、技術習得等について支援していきます。
- ②トマトは、昨年度の豪雪被害にもかかわらず、新規栽培者が4名加わり、総生産者数136名になり、栽培面積も0.2ha増の約35haとなった。また、4戸の生産者が出荷時期の前進化栽培に取り組み6月29日から出荷を始めました。
- ③本県育成のアスパラガス新品種(春まちグリーン、ハルキタル)は管内で25aが作付けされています。只見町では1haの新規作付を目指し作付けを推進中です。
- ④集落営農推進にあたり地域や集落の伝統文化を尊重し、それぞれの地域にあった方法で進めることの重要性が確認されました。

(農業普及部)

## アクの弱いワラビ試食検討会の開催!

田島町の藤生わらび生産組合では、平成15年から休耕田を活用し、県林業研究センターで選抜された「アクの弱いワラビ」を栽培しています。7月13日に藤生集会センターにおいて「第2回アクの弱いワラビ試食検討会」を実施しましたので、その内容を紹介します。

今回は昨年度の試食検討会の結果を踏まえ、どこの家庭でも比較的簡単にできるアク抜き方法を用いて、手法や時間の経過によるアクの抜け度合いについて、「アクの弱いワラビ」と「従来のワラビ」を比較しながら試食検討を行いました。



その結果、重曹でアク抜きする一般的な方法では、「従来のワラビ」では一晩漬けおきする必要があるのに対し、「アクの弱いワラビ」は1時間で、少ししかアクを感じなくなり、2時間経過するとほとんどの人からアクを感じないといった感想が寄せられ、「従来のワラビ」と比較して、「アクの弱いワラビ」の商品としての優位性が確認されました。

藤生わらび生産組合では今後も「アクの弱いワラビ」の栽培面積を拡大し、販売へと展開していく予定です。これまで、時間のかかるアク抜きが面倒でワラビ料理を敬遠していた方々にも、手軽にワラビ料理を楽しんでもらえるようになることを期待しています。

(森林林業部)

## 農林事務所からお知らせ

### 森林が持つ“癒し効果”を勉強する研究会を発足予定

国では、森林が人にもたらす効果を医科学的に解明する動きがあるなど、近年“森林が持つ癒し効果”が話題となっています。そこで、豊かな森林資源を有する南会津管内においても、今後外部の有識者をコーディネーター(講師)として呼び、

“森林が人にもたらす効果”等を勉強する研究会を発足する予定です。

この研究会では主に、

- ①森林が人にもたらす癒し効果の普及・啓発(講演会の開催や先進地研修等)
- ②南会津管内の森林・温泉資源(フィールド)等の調査

を大きな2つの柱として、年に数回勉強会を開催し、併せて管内の森林・温泉資源等をPRするパンフレット作りなどを予定しています。

この研究会で、管内の森林が持つ癒し効果を学び、南会津管内の豊富な森林と温泉資源等を活用した、地域振興が図られることが望めます。

(地域農林企画室、森林林業部)

## この人を知りたい

### “はんぞう”職人

(平野和利さん 檜枝岐村)

今回は、“はんぞう”(=そばのこね鉢)作りをしてこの道24年になる、檜枝岐村の平野和利(ひらのかずとし)さんを御紹介いたします。

平野さんの住む檜枝岐村は、奥会津の急峻な山々の懐に抱かれた人口750人ほどの村です。耕地は殆ど無く、人々は昔から、春には春の、夏には夏の恵みを受けながら、山と共に暮らしてきました。このような地域において、はんぞう作りをはじめとした木工品の製作は、村の冬仕事として代々受け継がれてきました。

平野さんは40才代半ばで、それまでの製材業から伝統的なはんぞう製作に転換し、地元の名人と呼ばれる職人に教わりながら、その技を磨いてきました。殆ど機械は使用せず、「よき」や「手ぶり」といった独特の道具類を、平野さんの手に馴染むよう作り直して使用するなど、「手作り」に対する平野さんのこだわりがうかがえます。

はんぞう作りは、まず材料となるトチノキから、もととなる部材を切り出し、外側の丸みを大まかな形に整えた後、内側を削り、器の形に仕上げるわけですが、各作



(↑はんぞうを持った平野さん)

業には熟練の技術が必要とされます。『木の目に沿って削っていかないと、刺さってしまうから、木目を見極めるのがポイント。あとは仕上げという気持ちで、丁寧に、少しずつ作業をしていくことかな。』と、平野さんは言います。ものによっては製作に1週間以上かかることもあるとのことでした。

これまで平野さんが手がけたはんぞうは、数千個にも及び、最大のものは4尺6寸にもなるとのこと。平成16年に社団法人国土緑化推進機構から「森の名手・名人100人」に認定された平野さんは、現在遠くは九州から注文を受けて、はんぞうを作っています。全ての工程を一人で行わなければならない作業が敬遠されがちなためか、村のはんぞう作りのなかでは一番の「若者」である平野さんは、今日も山あいの村で、元気にはんぞう作りの音を響かせています。

(森林林業部)

## 水田農業改革ミニニュース(第3回)

### 推進活動を展開中!

水田農業改革推進本部

平成16年度から始まった米政策改革ですが、昨年度は、南会津で初めての取り組みとして特別栽培米の生産が始まるとともに、館岩村・只見町では水稻のエコファーマーが誕生するなど、水田農業改革アクションプログラムの目標達成に向けて一歩一歩確実に進んできているところです。今年度も南会津地方の重点推進項目について推進活動を展開しています。

南会津地方のアクションプログラム重点推進項目は、①環境にやさしい米づくり、②水稻直播栽培の推進、③大豆の作付拡大、④野菜・花卉の作付拡大、⑤意欲ある担い手への農用地の利用集積、の5つです。環境にやさしい米づくりでは特別栽培とエコファーマー



(田島町川島地区における水田での大豆栽培)

による栽培、大豆の作付拡大では地産地消を核とした生産組織・団地化による栽培など、それぞれの項目について推進を図っているところです。

今後も、目標達成に向け、関係機関・農業者の方々と一体となり積極的に取り組んでいきますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

## 笹巻き

手軽に食べられる“ふるさとの味”

(南郷村農林課)

もち米を、一度乾燥させ水で戻した笹の葉で包み、そのままゆでて完成というシンプルな食べ物ですが、昔から食べられている郷土料理の一つです。

作る時期としては、田植えの頃が一般的ですが、笹の葉には殺菌作用もあり、ある程度保存性もあることが



← もち米を詰めて笹の葉を巻く作業風景

ら比較的多めにつくり、農繁期の一服等で手軽に食されてきたようです。

食べ方は様々ですが、きな粉等をまぶして食べるのが一般的です。

## 今月のコラム

### 日本百名山、福島県の山 会津百名山に向かって

山登りにはいろいろな分野があり、多種多様に富んでいる。だからいろいろな指向性を抱く、多くの人がそれぞれ自分の好みのスタイルの登山が出来るし、あるいはその時の気分により何処へでも行ける。

私の場合タイトル記載の山制覇に向け月一回以上のペースで出かけることにしています。ただ、私たちのルートは技術こそいらないが忍耐と根気が必要な場合が多い。それが呆れるほど長く続く、ゆっくりと機械的に一步一步足を運び、時々止まり呼吸を整えるため休むが次の一步を踏み出すのに大きな意志の力が要る。苦痛に身を任せた一步一步がいつも延々と続く。それでも懲りなく出かけるのは、いつもそれと同じくらい数限りない感動と喜びを味わうから他ならない。数限りない喜びに感謝しながらまた出かける計画をしています。

今年は、一月 霊山(福島)、二月 イエローフォール(裏磐梯の氷壁)、斉藤山(田島町)、三月 雲取山(東京)、四月 ニッ箭山、足尾山縦走、背戸峨廊溪



← 飯豊山本山から望む朝焼けの大日岳

谷巡り(いわき市)、五月 二岐山(天栄村)、南アルプス八ヶ岳縦走(硫黄岳、横岳、赤岳等)、六月 三倉山、三本槍ガ岳(下郷町)、博士山(柳津町)、七月 三倉山(下郷町)、三ツ岩山(伊南村)、飯豊山縦走(飯豊山、大日岳等)を制覇しました。

八月は早池峰山、岩手山、岩木山を計画しています。

山登りには次のような魅力があります。

- ・大雪渓を背景に多様な草花の散策
- ・雲上の花園
- ・日本一高所の温泉宿での一杯
- ・野鳥のさえずりを聞きながらの山歩き
- ・本州最端の霊峰で雄大な自然をパノラマで
- ・花と樹木と水の静寂境
- ・森林の持つ癒し

皆さんもいろいろコーディネートし出かけてみてはいかがでしょうか。

(農業振興部農政グループ課長 渡部利助)



### お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/nourin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。